

令和八年度 専修大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注意

- 一、試験時間は五十分です。
- 二、問題は一ページから十五ページまでです。
- 三、答えはすべて解答用紙の指定の欄に記入しなさい。
- 四、字数指定がある場合、句読点や記号も一字に含めて書きなさい。
- 五、答えを書きなおすときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。
- 六、問題用紙も、試験終了後回収します。



□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、出題の都合で改行や小見出しを省いたところがある。

哲学で有益<sup>a</sup>なのは、科学や政治などそれぞれの専門領域の内に収まった知識を俯瞰<sup>\*1</sup>的に見られることである。そのために議論を行う時、「何について考えているのか、議論しているのか」、その前提を明らかにできる。たとえば、科学的な議論（問い）を常識による証拠によって検証することはできないし、法律の違法／合法の判断に、効率性や安さといった経済的な指標を用いることはナンセンスである。証拠の基準や判断の基準は、「何について論じるのか」、「どのような視点に立っているのか」によってその正しさは変わる。日常生活では、こうした前提の確認や合意をせずに議論を行うことが多い。しかし議論が噛み合わない<sup>①</sup>のは、異なる前提（定義・想定）から推論しているためで、推論そのものが間違っているわけではないことも多々ある。どのような領域に立って議論しているのかに意識的になるには、哲学の思考法が役に立つ。

② 哲学の目的は物事の本質を捉えることである。具体的には「……とは何か」という問いに「……は……である」と答えようとすること、定義することと言い換えることもできる。しかしその答えは「絶対の真理」<sup>③</sup>ではない。本質についての多様な答えを提示して、さらなる議論を積み重ね、できるかぎり共通の了解にたどり着き、それを土台に議論して対立を解消したり、問題解決したりすることが哲学の意義である（苦野 2017）。

では「ものごとの本質」とは何だろうか。たとえば「美とは何か」と問われた時、「サラブレッド（美しい馬／生き物）」とか「楽茶碗（美術品）」という答えは哲学的に正しい答えとはいえない。「本質」とは、美の属性を表すあれやこれやの具体物ではなく、それらが「美しい」といわれるのは何に基づいているのか、「美についての考え」である。美という抽象的な概念について定義すること、なんらかの答えを出そうとするものである。

④ そうであるので、哲学的に意味のある問いとそうでない問いがあるのが分かる。たとえば「GDP（国内総生産）

とは何か」とか「GDPを増やす施策とは何か」という問いは、前者については決定済みの定義がすでに存在し、後者については現状の**ブンセキ**から具体的な施策が導き出されるため、哲学的な問いにはならない。

哲学的な問いとは、「幸福とは何か」、「正義とは何か」、権力とは、法とは、自由とは、時間とは、魂とはなど人間の生き方に関わることの「意味を問うこと」である。したがって立場によって違う答えしか得られないような問いである場合が多い。逆に知識が確定的になると、その主題は哲学から切り離されて別の学問領域になる。<sup>\*2</sup>論理学や心理学、自然科学一般、法学、政治学はそうした歴史的経緯をたどった。

では各専門分野と哲学の考える概念はどこが違うのかといえは、たとえば政治学は権力をいかに少数の者に集中させないかについて考え具体的な施策を提案するのに対して、哲学は「権力とは何か」と問うて、権力についての「考え」を深めようとする。哲学が扱うのは「考え」という分野であり、「……についての考え」という言葉にあてはめると哲学者がそれぞれの専門分野でどのような立場を取るのかが分かりやすい(ドロア 2005)。それぞれの分野は分野独自の目的(視点)と方法と対象を持つのに対して、哲学はあらゆる分野について考えることができ、どの分野でも同じ方法を用いる。あらゆる知識は専門分野という特定の視点の中に収まっているものだが、哲学は知識全体を大局的な観点から眺め、その視点自体を生み出すものといえる。

哲学が特別なのは、考える内容というよりは哲学独特の **問答** のせいである。「……とは何か」という問いを使って抽象的な概念の正確な意味の定義を行うために、「問答」と「対話」によって互いの共通点や差異を取り出しながら探究を行う **対話** が古代から用いられた。ソクラテスの産婆法さんばほうと呼ばれる対話法は、問いを立てて相手に答えさせ、さらなる問いによって相手の答えの矛盾に自ら気づかせ、それまでの考えを捨てさせて探究を進める **対話** である。

<sup>\*3</sup>レトリックが常識を議論の前提に据え、類似した事例を根拠に議論するのに対して、哲学においてはむしろ常識を疑い、批判的に見ることによってものごとの本質をつかもうとする。そのためには自然や社会など多様な知識の中に問い

を位置づけて俯瞰的に議論することが求められる。個人的な経験からの一般化は哲学においては最も避けなければならぬものとされているので、対話や討論を行う時には、主題についてチクセキされた過去の議論を足がかりにする。先人のたどり着いた答え（定義）を議論の中で対話させることにより、より包括的な、積極的な、または全く新しい視点に立った説明を求めていく。提案↓議論↓再提案を繰り返し、提案に対する反論からより包括的な提案を導くというように、真理を求めながらも、その答えは常に議論や反論によって更新されていくことを前提としている。

ものごとの本質を捉えることを目指す哲学は、厳密に正しく考えるためにサイシンの注意を払う。人間がもの考える時には、否応なく言葉を使って考えるため、正しく考えるには、正しい言葉の使用が前提となる。この時役立つのが文法と論理学である。

まず文法的に正しい文で考えているかをチェックする。文法的に正しい文で考えると、文章を構成する規則に従って意味の通る文になっているということである。次に文を構成する語の意味が適切に使われているかを確かめなければならぬ。私たちが日常使う言葉の多くは複数の意味を持つ。「……とは何か」を定義する時に、複数の意味に解釈されてしまうような曖昧な言葉の使い方をしていないか、そして言葉の結びつきが矛盾を含んでいないかどうかを確かめる（たとえば「四角い丸」のような矛盾がないか）。

こうして文の構造と文を構成する語のひとつひとつを注意深くチェックした上で、言葉と考えが筋の通るように組み合わせられているかを、論理学の形式の規則に照らして確かめる。特に接続詞や否定（「ではない」）の適切な使用と「すべて」と「ある」の含み含まれる関係に矛盾がないかは、錯覚と正しい考えを区別する重要なチェックポイントである。<sup>⑧</sup>文法と論理学が哲学の基礎として学ばれるのは、哲学の活動は言語と論理への働きかけを通して行われるからであり、その時言葉と文章という思考の道具がどのように働いているのか、その使用にあたって注意すべき落とし穴は何かを知らなければならぬからである。<sup>⑨</sup>

\*1 俯瞰……………全体を上から見ること。

\*2 論理学……………正しい思考過程を経て真の認識に達するために、思考の法則・形式を明らかにする学問。

\*3 レトリック…言葉によって人を説得する際に用いられる表現技法。また、それを学問化したもの。

問一 傍線部 a、e の漢字は平仮名に、カタカナは漢字に改めなさい。

問二 傍線部①「議論が噛み合わない」とあるが、これを防ぐために必要なことが具体的に述べられている部分を本文から八字で探し、抜き出して答えなさい。

問三 傍線部②「哲学の目的」について、以下のように説明した。空欄に当てはまる語句を本文から十五字で探し、抜き出して答えなさい。

「……………とは何か」という問いを用いて、

を行うこと。

問四 傍線部③「絶対の真理」ではない」と述べられている理由について、以下のように説明した。空欄に当てはまる語句を本文から二十字以内で探し、初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

哲学において出された答えは  から。

問五 傍線部④「哲学的に意味のある問い」の例として、適当ではないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人は自由であるか
- イ 人の齒はなぜ白いか
- ウ 人に友人は必要か
- エ 人生の意味とは何か
- オ 人の幸せとは何か

問六 傍線部⑤「歴史的経緯」とはどのような経緯か。本文の言葉を用いて、解答欄に合うように三十字以上四十字以内で答えなさい。

問七 傍線部⑥「各専門分野と哲学の考える概念はどこが違うのか」とあるが、その「違い」の説明として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 各専門分野は常識を疑い、哲学は常識を議論の前提に据えて考察する。
- イ 各専門分野はそれぞれ独特の視点を持ち、哲学は大局的な観点で見ると。
- ウ 各専門分野は類似の手段を使い、哲学はどの分野でも同じ手段を使う。
- エ 各専門分野は物事の本質を追究し、哲学は問題解決を目的としている。
- オ 各専門分野は施策の提案ができ、哲学は施策を周知することができる。

問八 空欄⑦には同じ語句が入る。適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 習慣
- イ 伝統
- ウ 方法
- エ 機能
- オ 観点

問九 傍線部⑧「すべて」と「ある」の含み含まれる関係」について、以下の例を考えた。AとBの関係について、  
適当なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。

〈例〉

店の駐車場に二十台の車が停まっていた。

A 「すべての車が、今日の昼から停まっている。」

B 「ある車は、昨日から停まっている。」

- ア Aが正しい場合、Bも正しい。
- イ Aが正しい場合、Bは間違っている。
- ウ Aが正しい場合、BはAに含まれている。
- エ Aが正しい場合、AはBに含まれている。
- オ Aが正しい場合、Bは正しいか間違っているかわからない。

問十 傍線部⑨「文法と論理学が哲学の基礎として学ばれる」とあるが、これはなぜか。解答欄に合うように本文から  
二十三字で探し、初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

問十一 本文の内容と合致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 哲学的な問いは人間が生きるために役立つものではない。
- イ 古代から継承してきた哲学者の考えは捨てる必要がある。
- ウ 日常生活で使う言葉の意味は誰もが同じ意味で受け取る。
- エ 哲学では個人的な経験からの一般化を避ける必要がある。
- オ 文法と論理学を学ぶためには哲学を学んでいた方がよい。

□ 次の文章は、武術研究者である筆者が文明のあり方を踏まえて、武術における基本について論じたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、出題の都合で改行や小見出しを省いたところがある。

人間はほかの動物と違い、<sup>①</sup>生活技術としての本能が極端に少ない生物です。そのため人間はいろいろな文明を發展させてきましたが、決定的にこれがいいというのがなかったからこそのいろいろな文明を育てることができたのだと思います。これが一番いいというか、「これしかない」と固定されていたら、こんなにも多様な文明は作れなかったでしょう。不安定だが、そのために絶えず<sup>②</sup>試行錯誤をしてきた。そしてそのことが人間の可能性につながってきたのでしよう。

人間とは、つまるところ何にもなりえなかった存在です。みずからの発想と思考力で、いろいろなものを作ってきたことは、一面ではすばらしいというところさえありますが、他方、つまり本来果たすべきもの、規定された生き方がないともいえます。ないからこそ、擬似的な生活技術の本能というものを作ってきたわけで、それが文明や文化になったのでしよう。ただその人間の文明の高度な（言い方を変えれば異常な）発達が、現在、人間自身の存在をおびやかしています。

人間の生活技術としての本能である文明や文化が、<sup>a</sup>ノウコウも行わない、行ったとしても、<sup>ろ</sup>栗の木を植えた程度の縄文文化どまりであったなら、人間がこれだけ環境を破壊し、地球の癌<sup>がん</sup>と呼ばれることもなかったでしょう。これも、人間の可能性という長所即欠点のひとつです。欲望にまかせて前へどんどん進むことで、機械文明などの人間の創造物が逆に人間の存在を冒しつつあります。人間のすばらしさが<sup>もろは</sup>諸刃の剣<sup>ツノ</sup>であることをどう自覚して、<sup>③</sup>これからどうするかを本気で考える時期にきていると思えますが、この先どういう道をとったらいいか、それは本当に難しい問題だと思えます。ですから、<sup>④</sup>こういう時代になって、いっそう私は「これが正しい」と言いづらいいのです。このことは<sup>\*</sup>私の技についてと同じで、「この動きは以前に比べればより有効だ」とは言えますが、正しいという表現はどうしても使いづら

いのです。

しかし世の中には、「これが正しい」と ⑤ 的にものを言う人がたくさんいますね。私にはそれがよくわかりません。もちろん、それが禪ちんで見性けんせいしたときのような、うまく言葉にならない感覚的な直感で言うところの絶対的なものなら、そう言うのももつともかなと思います。客観的本質的な意味で正しいかどうか判断するのは、本当に難しいというか不可能としか言いようがない。それは私の中に常にある感覚です。自分が常にいいとは思っていない、だからこそ、次々に技が進展していくのだと思います。そしてもちろん、そのことが正しくてよいことかどうか私にはわかりません。

ただ、言えることは、その進展が常に私の気持ちを集中させ、気持ちに張りが出る方向に行っているか、心にやまさが生じていないか、そういったことを判断材料として、手探り足探りで進んでいます。

(中略)

長谷川コーチは剣道五段で、もともと剣道の専門家を目ざし、大学卒業時にはある国立大学の剣道指導者にと望まれたほど、その道一筋に子供の頃から精進しんじんを続けてきた方ですが、多くの人は、大人になると鈍ぶってくる子供の頃の純粹さを多分に残して成長されたのでしょう、現代剣道でいうところの、ある面、問答無用的な「正しい剣道」(現代剣道では、常に右足前で行うことが正しいとされ、一部の古流に見られる左右の足で自然と進退することが否定されているが、その具体的根拠ははっきりと示されていない。また、多くの剣道家が宮本武蔵の『五輪書\*3』を重視するが、武蔵はこの中で、足使いについて、踵かかとを強く踏むべしと述べているにもかかわらず、現代剣道は爪先立つまさきたちった立ち方を正しいとしており、武蔵の教えは否定されている。だがその根拠も、爪先立つまさきたちった方がスポーツ的に「ため」のある動きが行いやすいということ以外、詳しい説明はなされていないようである)にどうしてもなじめず、「もしこのまま自分も納得できない「正しい剣道」を「これが正しいのだ」と言って後進を指導したら、きっと自分\*4はノイローゼになってしまう

だろう」と思い、子供の頃からの夢だった剣道の専門家となることを断念したというメズラしい人物なのです。

それだけに私と話も合い、私が大変信頼している方です。

私は自分の会を立ち上げる前からずっと考えていたのですが、苦しいことをじっと我慢しているだけでしたら、クリエイティブなことではできません。ライト兄弟が飛行機を作ったときでも、よそ目には大変な苦労のようにみえたでしょうが、本人たちは決して苦役ではなかったと思います。食事の時間も惜しんで、カンヅメ<sup>d</sup>を買い込みながら、集中して計画的に飛行機作りに取り組んだそうですから、無理して我慢していたとはとうてい思えません。これは稽古にもいえることです。初めから二時間やると決めて、⑧ 感で稽古を続けたとしても、それはむしろ感覚を鈍らせることになりません。

素晴らしい芸術作品を作った画家が、自分にノルマを課してやろうとしたのでしょうか。才能があり、閃きのある人ほどそうではありません。数をこなせばうまくなるといいますが、単なる数量の問題ではありません。天才的な人ほど、「いや違う」「これは違う」と結果として何枚も何枚も描いた、ということはあるでしょうが、それは単なる繰り返しではないはずです。おそらく自分の中の「これだ」というイメージに合うものを必死で探していった結果そうなったのでしよう。

数やるうちに慣れで何となく形になってくると、最初から自分の中にある感覚を追究すると、そこには決定的な違いがあります。

私が武術の稽古で、「基本が大事だ」と言っても何度も繰り返し反復稽古をすることに疑問を抱いているのはそのためです。だいたい基本の重要性というのは、かなり使えるようになってからでないとわからないものです。それが実感されたときは、もはやノルマとしての基本ではありません。毎回毎回が反復ではなく、探究になっていて、一見同じことを繰り返しているように見えますが、実質的には毎回新しいことをやっているようなものなのです。

「基本が大切」と言っている人のほとんどは、「基本が大切らしい」といったレベルだと思います。<sup>10</sup> 私は、私の技のなかに基本を作らず、絶えず基本が何なのかを探究するようにしています。

甲野善紀『古武術に学ぶ身体操法』（岩波書店）

\* 1 私の技………筆者が研究している武術の技のこと。

\* 2 見性………ここでは、悟りを開くこと。

\* 3 『五輪書』………宮本武蔵が著した江戸前期の武道書。

\* 4 ノイローゼ………心に不調を来した状態。

\* 5 自分の会………筆者が立ち上げた「武術稽古研究会」のこと。

問一 傍線部 a ～ e の漢字は平仮名に、カタカナは漢字に改めなさい。

問二 傍線部 ① 「生活技術としての本能」とはどのようなことか。本文から八字で探し、抜き出して答えなさい。

問三 傍線部 ② 「試行錯誤」と同じ意味を表す語句を本文から六字で探し、抜き出して答えなさい。

問四 傍線部③「これからどうするかを本気で考える時期にきている」とあるが、筆者がこのように考えている理由を以下のように説明した。空欄 A・B に当てはまる語句を本文からそれぞれ指定された字数で探し、抜き出して答えなさい。

人間は A(十一字) を用いて文明を築いてきたが、逆にそれが B(七字) にとって脅威となりつつあるから。

問五 傍線部④「この動きは以前に比べればより有効だ」とは言えますが、正しいという表現はどうしても使いづらいです」とあるが、その理由として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 動きの有効性とは感覚的なものであるため、これが正しい動きだと言葉で表現することは難しいから。
- イ 動きの良し悪しとは結果的なものであるため、過程を重視する正しさという語では表現できないから。
- ウ 動きの有効性とは相対的なものであるため、これが正しい動きだと言いつけることは不可能に近いから。
- エ 動きの良し悪しとは直感的なものであるため、動きの正しさを理論的に証明することは不可能だから。
- オ 動きの有効性とは理想的なものであるため、動きの正しさを現実的に把握するのは難しいことだから。

問六 空欄 ⑤ に当てはまる語句として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 認知
- イ 情緒
- ウ 数値
- エ 楽観
- オ 断定

問七 傍線部⑥「問答無用的な「正しい剣道」とあるが、筆者はなぜ「正しい剣道」にカギカッコを用いているのか。その理由として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 現代剣道の教えに納得しつつ、再度新たな正しさを自問自答しているということを強調するため。
- イ 武術における絶対的な正しさと現代剣道における相対的な正しさを比較し、その違いを強調するため。
- ウ 現代剣道における正しさによって、武術本来の動きやすさが見失われているということを強調するため。
- エ 詳しい説明も具体的な根拠も明確に示されていない、結論ありきの正しさであることを強調するため。
- オ 古き良き時代の正しさを肯定し、多様性を重んじる現代の風潮を否定する態度を強調するため。

問八 傍線部⑦「本人たちは決して苦役ではなかったと思います」とあるが、筆者がこのように考えている理由を以下のように説明した。空欄に当てはまる語句を本文から二十五字以内で探し、初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

本人たちにとって、だから。

問九 空欄⑧に当てはまる語句として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 義務
- イ 違和
- ウ 優越
- エ 多忙
- オ 無力

問十 傍線部⑨「うまくなる」とあるが、ここでの「なる」と文法的に同じものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 度重なる不幸に見舞われた。

イ 教師になるための大きな試練だ。

ウ またもや単なる繰り返しだ。

エ なるべく大きな声で歌おう。

オ 彼の意見に、なるほどと感心した。

問十一 傍線部⑩「私は、私の技のなかに基本を作らず、絶えず基本が何なのかを探究するようにしています」とあるが、ここでいう「探究」とはどのようなことか。解答欄に合うように本文から十八字で探し、初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。







